令和5年度　学校経営評価　　七尾市立東湊小学校

評価者	15人

後期

教育目標　自ら学びに向かい，仲間や郷土を大切にし，たくましく生きる　児童の育成

アップ　　ダウン

◇校務分掌上回答できない項目は無答としてください。

◇太枠内のA～D，無答に〇を記入してください。
◇校務分掌上回答できない項目は無答としてください。

重点項目	番号	評価項目と具体的取組（担当者）	評価指標	判断基準	A	B	C	D	無答	肯定的評価	保護者評価
組織的運営と評価	1	組織的な学校運営（三野） （調和のある校務分掌，運営委員会，校務部会による協議や提案，各種校内委員会など）	学校運営委員会を核にし，部会や各種校内委員会を積極的に開催している。 ＜努力指標＞	A：月に2回以上 B：月に1回～2回未満 C：月に1回未満 D：ほとんど開催していない	9	5	0	0	0	100%	
	2	PDCAサイクル（計画・実行・検証・改善）による学校評価（三野） （保護者アンケート，授業アンケート，ロードマップ部会の取り組みについて検証，学校経営評価など）	教育活動を検証し，よりよい教育活動ができるように努めている。 ＜努力指標＞	A：対応と職員の共通理解を図った B：対応を図った C：対応はしなかった D：何もしなかった	11	3	0	0	0	100%	
学力と指導力向上	3	対話を通して，自分の考えを表現する児童の育成(朝倉) （かかわり合い《対話》を意識した授業）	対話的な学びを設定している。 ＜努力目標＞	単元の中で対話を重視した授業を，1時間以上設定した単元の割合が A：90％以上 B：80％～89％ C：70％～79％ D：69％以下	7	4	2	0	1	85%	
	4	表現力の育成（朝倉） （問題に対して自分の考えを表現，「なっとく」「はっけん」「これから」を表現したふりかえり）	「なるほど」「発見」「これから」を意識したふりかえりを行っている。問題に対して自分の考えを書く・話す指導をしている。 ＜成果指標＞	単元の中で表現力の育成をを重視した授業を，1時間以上設定した単元の割合が A：90％以上 B：80％～89％ C：70％～79％ D：69％以下	3	6	3	1	1	69%	
	5	児童用端末の効果的な活用（出島） （児童用端末を効果的に活用した授業づくり）	導入，展開，終末の場面において，ねらいを達成するために児童用端末を効果的に活用している。	児童用端末を活用した授業の実施状況が A：毎日 B：週に2～4回 C：週に1回 D：週に1回未満	5	6	2	0	1	85%	
	6	読書指導の推進(石垣) （年間読書目標の設定，読み聞かせなど）	読書目標冊数を達成できるように努力している。 ＜成果指標＞	年間読書目標冊数の40％の達成割合が A：100％以上 B：90％～99％ C：80％～89％ D：79％以下	6	5	0	0	1	100%	96.0%
	7	学びの心の育成（松浦） （ばっちり7：ベルスタ・号令・ペタンピングー・天井挙手・返事・目ビーム・反応）	ばっちり7を意識している。 ＜成果指標＞	育っている児童の割合が A：90％以上 B：80％～89％ C：70％～79％ D：69％以下	4	4	4	0	1	67%	94.0%
生徒指導と支援体制	8	規範意識の育成（三宅） （生活目標の月ごとの達成状況　生活チェック表の自己評価など）	児童生徒の発達段階に即して，基本的な生活習慣や規範意識が育っている。 ＜成果指標＞	育っている児童の割合が A：90％以上 B：80％～89％ C：70％～79％ D：69％以下	6	8	0	0	0	100%	92.0%
	9	あいさつの習慣化（三宅） （先あいさつ・笑顔・児童会の取組・PTAと連携した挨拶運動）	「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」のあいさつをしている。 ＜成果指標＞	あいさつをしている児童が A：90％以上 B：80％～89％ C：70％～79％ D：69％以下	4	10	0	1	0	93%	94.0%
	10	いじめ防止活動の推進（三宅） （年間通じて実施，不登校0など）	毎週の児童理解会議，隔週のおしえてアンケート，学期ごとの学校生活アンケートや個人面談ウィークを実施し，いじめ・不登校の予防・早期発見を行う。 ＜成果指標＞	A：未然防止や早期対応ができた B：早期対応ができた C：早期対応ができなかった D：何もしなかった	12	3	0	0	0	100%	93.0%

重点項目	番号	評価項目と具体的取組(担当者)	評価指標	判断基準	A	B	C	D	無答	肯定的評価	保護者評価
健康安全教育	11	安全点検，避難訓練 (赤坂・奥原・西脇) (危機管理意識の指導と徹底，年4回の避難訓練の実施)	児童や職員が自分の身を守るために真剣に取り組んでいる。 ＜成果指標＞	真剣に取り組んでいる割合が A:90%以上 B:80%～89% C:70%～79% D:69%以下	11	0	1	0	0	92%	93.0%
	12	体力の向上(松浦) (スポチャレに全クラス挑戦，体力アップ1校1プランの実施など)	体育や長休みなどを通して，児童の体力アップに努めている。 ＜努力指標＞	体力向上について A:学級で目標を設定して取り組んでいる B:意識して取り組んでいる C:あまり取り組んでいない D:取り組んでいない	3	6	0	0	1	100%	97.0%
家庭・地域との連携・協力（開かれた学校）	13	家庭・地域との連携・協力と開かれた学校づくり(赤坂・三野) (積極的な授業公開，新聞やCATVでの活動紹介，学校説明会，PTAとの連携，保護者への連絡，学校評議員など)	保護者・地域と連携・協力を行っている。 ＜満足度指標＞	保護者アンケートの肯定的評価の割合が A:90%以上 B:80%～89% C:70%～79% D:69%以下	0	0	0	0			96.0%
	14	体験活動の充実(三野) (生活科・社会科・総合的な学習など見学・体験，まとめ活動，地域の人材，自然施設の活用など)	地域の自然・施設・人材を活用し，教科の特性を生かした体験活動の充実に努めている。 ＜成果指標＞	今までに取り組んだ回数が学期に A:2回以上 B:1回 C:実施を予定していたができなかった D:実施を予定していたがしなかった	6	2	2	0	1	80%	94.0%
特色ある教育活動の充実	15	ふるさとSDGsの推進(西脇・出島) (生活科・社会科・総合的な学習などでの見学・体験，まとめ活動など)	七尾の芸術文化・自然の体験活動や探究・発信を行う。 ＜成果指標＞	今までに取り組んだ回数が A:2回以上 B:1回 C:実施を予定していたができなかった D:実施を予定していたがしなかった	4	2	2	0	1	75%	
	16	特別支援教育の充実(山本) (学級担任以外の先生との交流，特別支援児童の理解)	児童と職員の交流や校内研修を行っている。 〈努力指標〉	今までに取り組んだ回数が学期に A:3回以上 B:2回 C:1回 D:0回	3	2	5	1	1	45%	
	17	道徳教育の充実(石垣) (思いやりの心を養う，考え議論する道徳の授業の実施など)	思いやりの心を育てる場や機会を設定し，認め合うように努めている。 ＜成果指標＞	学級活動や児童会活動，学校行事，課外活動など全教育活動で A:積極的に取り入れた B:だいたい取り入れた C:あまり取り入れなかった D:取り入れなかった	6	3	2	1	0	75%	92.0%
	18	キャリア教育の充実(三野) (将来の夢や希望をもたせる，職業観の育成など)	学校の教育活動全体を通してキャリア教育の視点を取り入れている。 ＜努力指標＞	学級活動や児童会活動，学校行事，課外活動など全教育活動で A:積極的に取り入れた B:だいたい取り入れた C:あまり取り入れなかった D:取り入れなかった	3	5	4	0	0	67%	
その他	19	働き方改革の推進(赤坂) (職員の労働時間に対する意識改革を推進する)	職員の時間外労働時間を削減する。 ＜成果指標＞	職員の勤務時間記録表において，時間外勤務時間の6ヵ月間の平均が A:45時間未満 B:60時間未満 C:80時間未満 D:80時間以上	11	2	0	0	1	100%	

考察

・肯定的評価が100%だったものは，全19項目中7つであった。前期と比べると100%の項目数は減ったが，2の「PDCAサイクルによる学校評価」や10「いじめ防止活動の推進」についてはA評価が増えており，質的に向上していると考えられる。

・8「児童用端末の効果的な活用」もA評価が増えている。臨時休業中にオンライン授業を行うなど，児童用端末の活用が進んだと思われる。全教職員が役割を意識し取り組んできたことが肯定的評価につながったと考えられる。

・9「あいさつの習慣化」は肯定的評価がさらに上昇している。9月に行った「あいさつ運動」があいさつの習慣化につながったと考えられる。1月にも予定していたが実施できなかったため，年度初めや学期始めなど，定期的に行っていくことでさらなる効果が期待できる。

・16「特別支援教育の充実」の肯定的評価は45%であったが，前期と比べA評価が増加しD評価が減った。今後は校内研修を充実し，特別支援学級の児童や，通常学級に在籍していても個別の支援や対応が必要な児童に対する理解や対処法について，職員間で共通認識をする場を設けることが肯定的評価につながると考えられる。運営委員会と並行して開催している特別支援学級担任の打ち合わせで話し合われた内容を，他の職員に伝えることも肯定的評価につながるのではないか。

また，評価しにくいという意見もあることから，評価指標や判断基準の見直しも考えていく必要がある。